

# 平成28年度瑞穂町第二次地球温暖化対策実行計画の推進状況について

## ○計画のあらまし

### 1 計画の期間及び対象施設

瑞穂町第二次地球温暖化対策実行計画(以下「実行計画」という。)は平成27年度の温室効果ガス排出量を基準とし、計画初年度を平成29年度、計画目標年度を平成33年度とします。毎年町の事務及び事業から排出される温室効果ガスの量を把握し、瑞穂町地球温暖化対策推進委員会で基準年度と比較します。そして、計画策定後5年を経過する時点までの温室効果ガス排出量や各種取組の実施状況を踏まえ実行計画の見直しを行っていきます。なお、瑞穂町の対象施設は実行計画に掲載されている127施設です。

### 2 削減目標

平成27年度を基準年として、平成33年度までに、事務・事業活動に伴う温室効果ガス排出量の10%削減をめざします。

## ○温室効果ガス排出量の実績

### 1 対象とする温室効果ガス

|                          |  |
|--------------------------|--|
| 二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )  | 化石燃料の燃焼、他社から供給された電気や熱の使用、廃棄物の焼却、工業プロセス(セメント製造、石灰石の使用等)によって排出されるもの。排出量が多いため、ここで挙げる4種類の温室効果ガスの中では温室効果への影響が最も大きい。 |
| メタン(CH <sub>4</sub> )    | 家畜の消化管内発酵、稲作、廃棄物の埋立等によって排出されるもの。二酸化炭素と比べると重量あたり約25倍の温室効果がある。   |
| 一酸化二窒素(N <sub>2</sub> O) | 燃料の燃焼、農地への施肥、家畜排せつ物の処理等によって排出されるもの。二酸化炭素と比べると重量あたり約298倍の温室効果がある。   |
| ハイドロフルオロカーボン(HFC)        | 冷蔵庫・エアコン等の冷蔵・空調機器の冷媒、エアゾール製品等に使用され、製品の製造・使用・廃棄時等に排出されるもの。二酸化炭素と比べると重量あたり約12~14,800倍の温室効果がある。                   |

### 2 平成27年度と平成28年度のエネルギー使用量・温室効果ガス排出量の比較

#### (1) 瑞穂町温室効果ガス排出量(温室効果ガス別)

|                                       | 平成27年度<br>排出量(kg-CO <sub>2</sub> ) | 平成28年度<br>排出量(kg-CO <sub>2</sub> ) | 平成28年度<br>温室効果ガス<br>の割合(%) | 平成27年度と28年度<br>の比較増減率(%) |
|---------------------------------------|------------------------------------|------------------------------------|----------------------------|--------------------------|
| 二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )<br>※内訳は(2)に記載 | 3,585,101                          | 3,587,161                          | 99.847%                    | 0.057%                   |
| メタン(CH <sub>4</sub> )                 | 110                                | 98                                 | 0.003%                     | -10.909%                 |
| 一酸化二窒素(N <sub>2</sub> O)              | 2,754                              | 2,970                              | 0.083%                     | 7.843%                   |
| ハイドロフルオロカーボン(HFC)                     | 1,130                              | 2,431                              | 0.068%                     | 115.133%                 |
| 温室効果ガス総排出量                            | 3,589,094                          | 3,592,660                          | 100%                       | 0.099%                   |

## (2) 二酸化炭素(CO2)排出量の内訳

※(1)の温室効果ガスの中で最も割合が大きい

|      | 平成27年度<br>使用量        | 平成27年度<br>排出量(kg-CO2) | 平成28年度<br>使用量        | 平成28年度<br>排出量(kg-CO2) | 平成28年度<br>二酸化炭素<br>の割合(%) | 平成27年度と28年度<br>の比較増減率(%) |
|------|----------------------|-----------------------|----------------------|-----------------------|---------------------------|--------------------------|
| ガソリン | 42,525 L             | 98,658                | 43,092 L             | 100,045               | 2.789%                    | 1.406%                   |
| 灯油   | 25,098 L             | 62,495                | 30,815 L             | 76,713                | 2.139%                    | 22.751%                  |
| 軽油   | 8,436 L              | 21,764                | 8,041 L              | 20,786                | 0.579%                    | -4.494%                  |
| A重油  | 67,951 L             | 184,147               | 77,510 L             | 210,023               | 5.855%                    | 14.052%                  |
| LPG  | 3,238 m <sup>3</sup> | 21,179                | 3,232 m <sup>3</sup> | 19,308                | 0.538%                    | -8.834%                  |
| 都市ガス | 24 m <sup>3</sup>    | 54                    | 24 m <sup>3</sup>    | 54                    | 0.002%                    | 0.000%                   |
| 電気   | 6,417,536 kWh        | 3,196,805             | 6,332,256 kWh        | 3,160,232             | 88.098%                   | -1.144%                  |
| 合計   |                      | 3,585,101             |                      | 3,587,161             | 100%                      | 0.057%                   |

## 3 温室効果ガス削減率の推移

|                           |       |   |
|---------------------------|-------|---|
| 平成27年度(基準年)に対する平成28年度の増減率 | 0.099 | % |
| 平成27年度(基準年)に対する平成29年度の増減率 |       | % |
| 平成27年度(基準年)に対する平成30年度の増減率 |       | % |
| 平成27年度(基準年)に対する平成31年度の増減率 |       | % |
| 平成27年度(基準年)に対する平成32年度の増減率 |       | % |

## ○計画の推進に係る平成28年度の実施

| 実施期間         | 取組内容                         |
|--------------|------------------------------|
| 平成28年4月～6月   | エコドライブ強化期間                   |
| 平成28年7月～9月   | 空調の省エネ(冷房)及び昼休みの消灯強化期間       |
| 平成28年10月～12月 | ノー残業デーの励行及びパソコンのこまめな電源オフ強化期間 |
| 平成29年1月～3月   | 空調の省エネ(暖房)及び昼休みの消灯強化期間       |

## ○平成28年度の進捗状況

平成28年度の温室効果ガスの排出量の合計は3,592,660kg-CO<sub>2</sub>となり、平成27年度(新たな基準年度)の3,589,094kg-CO<sub>2</sub>と比べ、0.099%の微増という結果になりました。温室効果ガス排出量の主な増加要因は、庁舎におけるA重油使用量が前年度より5,700L増加したことや夏季の猛暑に伴い電気使用量が増加したことが挙げられます。また、小中学校が契約している電気事業者の、温対法に基づく事業者別排出係数が前年度0.000466t-CO<sub>2</sub>から今年度0.000495t-CO<sub>2</sub>に上昇してしまったことが温室効果ガス排出量の増加に大きく影響しています。

温室効果ガス排出量のうち非常に多くを占める電気の使用量については、道路照明灯・防犯灯のLED化が進んだことや、郷土資料館けやき館において、収蔵庫の温度設定を見直し、緩和したことなどにより85,280kWhの削減につながっています。しかし、前述した温対法に基づく事業者別排出係数の上昇に加え、灯油の使用量が5,717L、A重油の使用量が9,559L増加したことが影響し、総合的には微増という結果になりました。今後は温室効果ガス排出量の更なる削減に取り組んでいく必要があります。

## ○今後の取組

### (1)環境配慮型の設備機器の導入促進

庁舎や公共施設における、環境配慮型の設備機器等の更新・導入が進むよう、事務局ではこれらに関連する補助・助成等の情報収集を行い、当該施設の所管部署へ情報提供を行うことで、温室効果ガス排出量の削減を目指します。

### (2)組織的な取組の定着化

実行計画の策定に伴い、平成29年度よりPDCAサイクル(①計画、②実行、③点検・評価、④見直し)に沿って組織的に温室効果ガス排出量の削減に取り組むこととなります。事務局では全職員に早期に定着するよう、周知・啓発を行い、進行管理をしていきます。